

ふくの湯

Fukunoyu
(東京都文京区)

異空間に足を踏み入れた。そんな感覚を覚えた。今回紹介するふくの湯のことである。

ふくの湯は2011年12月に新装開店した。伝統的な和の銭湯の要素に、新しい無国籍な現代アートの要素が複雑に混じり合い、心に迫ってきたのだ。

まずは和の側面。ふくの湯の入口はどこか料亭風。大きなゲタ箱、フロント、ロッカー、建具等、随所に木目調の仕上げが施され、脱衣室の照明は柔らかな光を放つ行燈だ。また、26個あるロッカーは、いろは順に番号が付けられている。ここまでは純粹に和の要素でまとめられていると言えよう。

しかし、浴室は雰囲気まるで異なる。ペンキ画、行燈、木の浴槽、壺風呂は伝統的なスタイルであるが、女湯との境にある無垢の木の壁に描かれたアーチスト・グラヴィティフリーによる七福神と宝船のアートと、浴室のタイルの使い方は、どこかエキゾチック。これらは無国籍な側面だ。

グラヴィティフリーによるアートでは、琵琶を奏でて波間に漂う弁財天がクローズアップされている。その色は重量感があり、ドロドロとした血液のような雰囲気の赤が基調だ。このことから、弁財天がトロピカル神になったようだ。また、タイルは約10種類が巧みに組み合わせられている。それらの一部は細かい模様と突起があしらわれ、それぞれが強烈な個性と存在感を主張している。オリエンタルでエキゾチック。タイルの妙である。



外観

和と無国籍。これらが、これまでの銭湯にはなかった新たな異空間を生み出した。二つの要素が無秩序に存在しているわけではない。二つの価値をぶつけ合いながらも融合させてしまったのだ。ふくの湯の言葉を借りれば、「ご利益気分な銭湯」。全く、欲張りな銭湯である。

浴室を詳細に見ていこう。洗い場は14箇所。銭湯には珍しく、リンスインシャンプーとボディソープが具備されている。他に、シャワーブースが1か所ある。

ペンキ画は「平成23年12月17日 丸山清人」と記載のある富士山だ。女湯側は同時期に描かれた中島絵師による赤富士。ともに、スポットライトによってライトアップがなされ、浴室内に鮮明に浮かび上がっている。

浴槽は大風呂と1人分の壺風呂だ。大風呂は縁の部分だけが木製になっている。この中には座風呂も2人分用意されている。壺風呂は少し高い位置に設置されているので、浴室全体を見渡すことができる。入ればプレミアムな気分になれることであろう。

大風呂の湯温は 42℃を示しており、壺風呂とともに適温だ。本日は大風呂と壺風呂の両方が「漢方薬湯 じっこうの湯」になっていた。

尚、ふくの湯では、週替わりで男女浴室を入れ替えている。本日は男湯となっている「弁財天の湯」しか取材できなかったが、女湯となっている「大黒天の湯」はまた違った趣向になっている模様である。しかも、ふくの湯は年中無休で朝湯も敢行。こんな銭湯が我が家の近所にあればと思う。ちなみに、ふくの湯にはサウナ、水風呂はない。

銭湯業は明らかに斜陽産業、衰退産業だと思う。しかし、このような新しい銭湯を提案し、創造した勇気あるオーナー、建築士、施工業者がいることに我々銭湯ファンは感謝しなければならない。銭湯はまだまだ捨てたものではない。それは進化し続けていたのである。

- 名称：ふくの湯
- 所在地：東京都文京区千駄木 5-41-5
- 電話：03-3823-0371
- 営業時間：平日 11:00~24:00、土曜日、日曜日、祝日 8:00~24:00
- 定休日：年中無休
- 入浴料：大人 450 円、中人（6 歳以上 12 歳未満）180 円、小人（6 歳未満）80 円
- サウナ：なし
- テレビ：なし
- 設計：今井健太郎建築設計事務所
(<http://www.ne.jp/asahi/space/88/workusmenu.htm>)
- 施工：北原建設、三協鉄工所、外山タイル工事店
- 取材日：2012 年 3 月 7 日（水）
- 取材：銭湯愛好会・東京支部